

医学教育分野別評価
久留米大学医学部医学科
年次報告書
2022 年度



令和4年8月
久留米大学

医学教育分野別評価 久留米大学医学部医学科 年次報告書 2022 年度

医学教育分野別評価の受審 2019(令和元)年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34

はじめに

受審後の2年目(2021年4月1日～2022年3月31日)は、前年度の年次報告書を委員会や部会、講座や診療科、学生や教員間で共有し、改善すべき課題に関する意識づけと改善計画の取組みを図ったが、前年度に続く COVID-19 の流行と対策で医学教育ワークショップ(1977年から隔年実施)を開催できず、感染対策と学修支援に労力を割かれ、改善活動を部分的に進めるのが精一杯であったのが現状である。なお、久留米大学中期計画は「将来構想 VISION 2017-2021」から「VISION 2022-2026」に引き継がれ、旭町キャンパスの戦略目標「C-b 教育の質の向上」の重要業績評価指標には、「医学教育分野別評価の指摘事項(改善44項目)への対応」が明記された。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2021年4月1日～2022年3月31日を対象としている。また、重要な改訂があった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 32の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1の改善項目として、「学修成果をコンピテンシーとして表現する」、「使命に国際的健康と医療の観点を明確に記載する」、「使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性について検討する」などが指摘された。これを受け、本学の「建学の精神」が制定されたが、使命の内容の変更、学修成果の表現、使命と学修成果の整合性の検討については、引き続き、改善活動を続ける。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①「国手の理想は常に仁なり」という医学部医学科の理念の下に、地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成を目標として、大学の使命に社会的責任を包含している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①使命に国際的健康と医療の観点を明確に含むことが期待される。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命は「時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進できる人材を育成する」であり、年度初めの教授会議で理念と使命(教育目的)が審議され、変更なく承認された。今後は、使命の後半部について、「高水準の医療や最先端の研究を推進できる国際的な人材を育成する」に変更するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

200 教授会議議事摘録（令和3年4月14日）

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①学修成果は達成を示す形のコンピテンシーとして表現すべきである。
- ②使命・ディプロマポリシーと学修成果との整合性について検討すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コンピテンシーの表現については、とくに改善活動を行えていない。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会や医学教育ワークショップにおいて、使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性を改めて議論し、学修成果の表現が達成を示す形のコンピテンシーとなるように、改善活動が続ける。

使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性については、カリキュラム委員会でワーキンググループを立ち上げて取り組むことが審議され、了承された。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会と医学教育ワークショップにおいて、使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性を議論するとともに、学修成果の表現は達成を示す形のコンピテンシーに変更するように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

220 カリキュラム委員会議事摘録（令和2年12月18日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①久留米大学病院では独自の臨床研修終了時の学修成果を定め、卒業時の学修成果との整合性をとっている。

改善のための示唆

- ①医学研究に関して学修成果をコンピテンシーとして明示することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくに改善活動を行っていない。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会と医学教育ワークショップにおいて、医学研究に関する学修成果をコンピテンシーとして明示するように議論し、例えば、「科学的探究心と自己研鑽」の「国内外の医学研究の動向を知り、科学的研究に興味を持てる」の後半部を「研究課題の設定、研究方法の選択、研究結果の解釈を行える」に変更するように改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①使命と学修成果の策定に関し、教員・職員・学生が参加する医学教育ワークショップを定期的
に開催し、議論を重ねたことは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教職員と学生が参加して議論する医学教育ワークショップ(隔年開催)は、コロナ禍で2020年度と2021年度に実施できなかった。今後は、オンライン方式での実施も視野に入れて2022年度の開催を計画する(2022年8月20日に従来方式で開催予定)。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①使命と学修成果について、教育関連病院長や医療関係行政組織担当者など、広い範囲の教育関係者から意見を聴取している。

改善のための示唆

②今後、使命と目標とする学修成果を策定する際には、他の医療職や患者の代表者などからの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育関連病院長との懇談会では、医学教育分野別評価の受審結果を報告し、使命や学修成果についても、学外の教育関係者からの意見聴取が重要であることを報告した。今後は、医学教育ワークショップを行うとき、「使命と学修成果」をテーマに挙げ、主要な教育構成者だけでなく、医療専門職(看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師など)や患者の代表者から意見を聴取するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

202 教授会議議事摘録(令和4年3月9日)

2. 教育プログラム

領域2の改善項目として、「行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理して科目責任者を明確にする」、「重要な診療科での臨床実習期間を十分に確保して診療参加型臨床実習を充実させる」、「科目間の水平的統合と垂直的統合を推進する」などが指摘された。これを受け、行動科学について、第1学年(I)は医療倫理学・地域医療学・アカデミックリテラシー、第2学年(II)は医学概論・多職種連携、第3学年(III)は医療倫理学を明記し、第4学年(IV)は行動経済学・健康行動理論を中心とした狭義の行動科学に再編したが、主要な診療科での臨床実習期間の確保と科目間の水平的統合と垂直的統合については、引き続き、改善活動を続ける。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①PBL テュートリアルを独自に発展させた「協同学習」として、チーム基盤学習(TBL)・逆転授業・話し合い学習法(LTD)をさまざまな科目で取り入れていることは評価できる。

改善のための助言

①統合型から改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、卒業時コンピテンスと科

目の関連性を明示すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学体系別・講座部門別のカリキュラムで授業科目の到達目標を明示しているが、卒業時コンピテンスとして足りない部分を洗い出す作業を行っている。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会において、学修成果(卒業時コンピテンス)と科目や教育内容を関連づけ、カリキュラムやシラバスで明示するように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①臨床実習においてEBMの教育をさらに充実すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

評価チームから「臨床実習におけるEBM教育の充実」を指摘された後、速やかに全診療科の教育主任に報告して注意を促し、学生と指導医が病院でEBMを利用できるように、臨床医学情報ツールとしての『UpToDate』を導入した。臨床実習におけるEBM教育の充実を図っている。

改善状況を示す根拠資料

210 教務委員会議事摘録（令和3年6月7日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.4 行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①「行動科学」の教育プログラムを明確に定義し、社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理・分類し、それぞれの科目責任者を明確にしてコーディネートすべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

行動科学部会が改善活動を行っている。2021年度は、「行動科学」の教育プログラムの整理・分類を前年度からさらに進めた。第1学年では、内容を地域医療学と研究・情報倫理に大別し、それぞれ行動科学Ⅰ(医療倫理学・地域医療学)と行動科学Ⅰ(アカデミックリテラシー)という名称の独立した科目に整理・分類を行い、後者は新たな科目責任者が担当した。第2学年では、科目名は行動科学Ⅱのままとしたが、前期は医学と医療の全体像や医師の在り方を中心とした医学概論に関する内容、後期は医療/介護/福祉/保健の専門職の役割を学ぶことを中心とした多職種連携・チーム医療に関する内容に整理・分類を行った。第3学年では、科目名は行動科学Ⅲのままとしたが、内容は医療倫理学に関連するものに整理・分類を行った。第4学年では、科目名は行動科学Ⅳのままとしたが、行動経済学や健康行動理論を中心とした狭義の行動科学に焦点を置いた内容に再編し、新たな科目責任者が担当した。

2022年度は、行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学等に関する内容を取り扱う複数の科目を「社会医学・行動科学系」という枠組みの中で取り扱う方針とした。科目名については、従来の行動科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳという様式を改め、より具体的な内容を表す科目名を用いるなどの改善活動を継続する。とくに第4学年における行動経済学や健康行動理論を中心とした狭義の行動科学には「社会医学・行動科学系」の科目である社会と医学・医療(公衆衛生学)と親和性の高い内容が含まれており、社会医学・医療倫理学・医療法学の科目の整理・分類をさらに進めていくこととする。

改善状況を示す根拠資料

- 260 行動科学部会議事摘録(令和3年6月21日)
- 261 行動科学部会議事摘録(令和3年12月20日)
- 213 教務委員会議事摘録(令和4年1月11日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①重要な診療科を中心に臨床実習期間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。
- ②学生が健康増進と予防医学の体験を確実に実践できるカリキュラムを定めるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

主要な診療科の臨床実習期間の確保については、カリキュラム委員会とクリニカル・クラークシップ部会が改善活動を行っており、2022年度でも4週間ずつの重要診療科の臨床実習を施行している。診療参加型臨床実習の充実については、PCCE部会(第4学年の臨床実習前演習PCCEを統括)が改善活動を行っており、2022年度は、「診療参加型臨床実習の事前演習」と題して、①事前学習(e-Learning)は感染予防・症例報告・画像診断・カルテ記載・患者コミュニケーション・ナーシングスキル、②臨床実習見学は5年生に密着して現場を見学、③グループ学習は臨床技能訓練・専門職連携教育(職場訪問/発表会)・問題志向型症例検討(臨床推論を2コース選択)を行い、学生の満足度が高かった。学生のカルテ記載については、「電子カルテ作成システム」を導入し、カルテ記載を行っている。今後は、実臨床で使用している電子カルテに記載する方向で検討している。カリキュラム委員会やクリクラ部会(教務委員会)が健康増進と予防医学の体験を実践できる機会を臨床実習に定めるように、改善活動を続ける。

臨床実習における健康増進と予防医学の体験については、コロナ禍での学外実習制限の影響もあり、とくに改善活動を行えていない。基礎系科目の再編成が終了し、臨床系プログラム構成の自由度が高まったので、今後は、カリキュラム委員会やクリクラ部会(教務委員会)が健康増進と予防医学の体験を実践できる機会を、臨床講義あるいは臨床実習に定めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 250 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和3年3月5日)
- 251 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和3年4月21日)
- 252 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和3年10月28日)
- 253 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和4年3月3日)
- 254 クリクラ部会 臨床実習協議会議事摘録(令和3年10月6日)
- 255 クリクラ部会 臨床実習協議会議事摘録(令和3年12月20日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①2015年から導入した新カリキュラムにおいて、低学年から学外の施設で早期体験学習を実施している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.6 教育プログラムの構造・構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、科目間の水平的統合を推進することが望まれる。

②改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、基礎医学・行動科学・社会医学と臨床医学の垂直的統合を推進することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

科目間の水平的統合と垂直的統合については、低学年における基礎系科目の再編成において水平統合を議論し、統合型教育が実質的に有効と判断された神経関連分野を、解剖学および生理学、薬理学間で統合し、「神経科学」を新設した。今後は、基礎医学・行動科学・社会医学と臨床医学の垂直的統合を推進するために、カリキュラム委員会や教務委員会で議論するとともに、教員が科目間の水平的、垂直的関連を意識して講義や実習を行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

221 カリキュラム委員会議事摘録（令和3年10月21日）

2.7 教育プログラムの管理

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会の活動をより実質化し、カリキュラムの改善を計画・実施することが望まれる。
- ②カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラム委員会が、第 1 学年と第 2 学年の科目再編成を実施した。今後は、カリキュラム委員会の活動をこれまで以上に具体化・実質化し、第 3 学年と第 4 学年のカリキュラムの改善を計画・実施する。また、カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育関係者(他の医療職・患者・地域医療の代表者)を含めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

221 カリキュラム委員会議事摘録(令和 3 年 10 月 21 日)

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①地域医療連携講座を設置して地域の教育関連施設と連携を取り、卒後の研修や臨床の実践につながる教育を行っている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会を通じ、地域や社会の意見を取り入れて教育プログラムの改良を行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍の影響もあり、とくに改善活動を行っていない。今後は、教育関連病院長との懇談会だけでなく、カリキュラム委員会の活動において地域や社会の意見を取り入れ、進行中のカリキュラム改革や教育プログラムの改良に反映させるための方策を議論し、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

3. 学生の評価

領域3の改善項目として、「学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築する」、「態度を確実に評価し、態度の評価が記録される仕組みを充実させる」、「臨床実習で様々な評価方法と形式を有用性に合わせて活用する」、「各科試験・総合試験・臨床実習評価について、評価方法の信頼性と妥当性を検証する」、「知識・技能・態度における形成的評価を充実させる」、「学生の評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックを全学生に公正に行う」などが指摘された。これを受け、臨床実習における技能と態度の形成的評価の充実が周知され、科目責任者に総括的評価の重要性が認識されているが、学年縦断的な評価体制の構築、態度の評価と記録の仕組みの充実、評価方法の信頼性と妥当性の検証、評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックの実施については、引き続き、改善活動を続ける。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①独自の試験問題プールシステムの利用により総合試験の充実を図っていることは評価できる。

改善のための助言

- ①第1学年の協同学習では、相互評価や形成的評価を含む多角的な評価方法を導入しているが、学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築すべきである。
- ②態度を確実に評価し、評価が記録される仕組みをさらに充実させるべきである。
- ③臨床実習において、Mini-CEX・多面的評価(360度評価)・電子ポートフォリオ評価とクリニカルスキル・トレーニングセンターを活用した評価など、様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ④卒業試験以外の評価においても外部の専門家による吟味を一層行うべきである。
- ⑤評価結果に対して正式な疑義申し立て制度を導入すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

態度の確実な評価については、定まった方法は確立できていないが、剽窃、カンニング、体温計測の未実施、レポート提出遅れなど根拠を呈示できるものを評価の対象とし、進級判定の材料とした。年度末の教務委員会と教授会議の進級判定では、行動指針に違反してCOVID-19を学内に持ち込み広げた複数学生を「態度不良」として条件つき進級扱いの審議対象者とし、態度評価の一部を確実に実行した。外部専門家による試験や評価の吟味は未着手であるが、評価結果に対する疑義申し立てについては教務課経由で受け付けている。今後は、学年縦断的な評価体制と態度評価の仕組みとして、IRセンターの設置と学生カルテの導入を具体化するように計画を進めているが、半導体不足のあおりを受けて導入できていない。臨床実習における多角的な評価の構築、総合試験の外部評価システムの確立、評価結果に対する疑義申し立て制度の導入などを進めるように、改善活動を続ける。

臨床実習の多面的評価については、各講座の教育担当者が集まる教育主任会議において、mini-CEXや360度評価の活用が説明された。臨床実習における多様な評価方法の有意義な活用については、クリニカル・クラークシップ部会で審議すべきであるが、コロナ禍で臨床実習の制限や中断があり、実施には至っていない。外部専門家による試験や評価の吟味と評価結果に対する疑義申し立て制度の導入も、未着手である。今後は、学年縦断的な評価体制と態度評価の仕組みとして、IRセンターの設置と学生カルテの導入を具体化するように計画を進め、臨床実習における多角的な評価の構築、総合試験の外部評価システムの確立、評価結果に対する疑義申

し立て制度の導入などを進めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 201 教授会議議事摘録（令和3年12月8日）
- 214 臨時教務委員会議事摘録（令和4年3月17日）
- 292 教育主任会議資料（令和2年11月24日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①各科試験・総合試験・臨床実習評価などについて、評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育研究センターでは、毎年、医師国家試験の成績(点数)と卒業試験・総合試験・共用試験 CBT の成績(点数)の関連を検証し、強い相関があることを確認している(一部は部外秘)。今後は、総合試験(例えば、第2学年の基礎医学 CBT や第3学年の臨床医学 CBT)と各科試験の相関や各科試験の評価方法の妥当性と信頼性を検証するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

3.2 評価と学修の関連

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①目標とする学修成果の達成を保証する評価であることを検証すべきである。
- ②知識・技能・態度における形成的評価をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

現行の試験が学修成果の達成を保証する評価であるかどうかについて、医学教育研究センターが適宜、教務課のデータを使って検証して教務委員会に提示している。例えば、第115回医師国家試験成績について、医学教育研究センターが受験者の領域別点数(四分位で全国平均と比較)を分析してグラフ化し、教務委員会に提出して結果を説明した。今後は、総合試験や各科試験、臨床実習の各科評価や態度評価について、医学教育研究センターが教務課と連携して学生の成績を分析し、試験や評価が学修成果の達成を保証する評価であるかどうかを教育評価委員会が検証し、学生の評価が充実したものになるように、改善活動を続ける。

形成的評価の充実については、各講座の教育担当者が集まる教育主任会議において、態度評価や形成的評価の充実が説明された。今後は、チューター制度をコンサルタント制度とリンクさせる形で教員が日常的な教育活動の中で、知識・技能・態度の形成的評価を充実させるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 800 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和3年4月No.73）
- 292 教育主任会議資料（令和2年11月24日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに適切な試験の回数と方法を検討することが望まれる。
- ②全学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的・建設的・公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医師国家試験の成績向上に向かって、試験の時期・回数・方法などを検討し、教務委員会や教授会議で審議している。また、学修対策部会における学生の要望を取り入れ、学内で行われるすべての試験は、試験終了後に問題と正解を学生に開示し、学生の評価が復習や自己学習に役立つようにした。第6学年の卒業試験の回数を減らし、フィードバックを行うプログラムを導入する。今後は、各種試験の評価結果に基づき、適切な時期に具体的・建設的・公正なフィードバックを行うように、改善活動を続ける。第1学年を除いて学年毎に総合試験と態度評価を行い、基本的知識の修得と統合的学修の客観的評価を充実させる様に計画する。

改善状況を示す根拠資料

- 214 臨時教務委員会議事摘録（令和4年3月17日）
- 203 臨時教授会議議事摘録（令和4年3月18日）

4. 学生

領域4の改善項目として、「使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参画する」などが指摘された。これを受け、学生は学修対策部会に参画しているが、使命の策定や教育プログラムの管理を審議する委員会への参画については、引き続き、改善活動を続ける。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①多様な入学者選抜方法を採用している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①地域や社会からの要請に応じて入学者数を定め、それぞれの入学枠の募集人員を調整している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①入学時から卒業時まで継続して個々の学生をきめ細かくサポートする学内コンサルタント制度を導入し、機能していることは高く評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命の策定を審議する委員会は開催されていない。PCCE 部会(教務委員会下部組織)では、プログラムの実施に関する議論に学生が参加しており、改善が見られ、効果的であるので、今後も続ける予定である(PCCE: Pre-Clinical Clerkship Exercise 臨床実習前演習)。学修対策部会(教務委員会下部組織)では、複数の学生が参加して意見や要望を述べているが、検討事項は成績不振者対策・国試勉強計画・勉強部屋確保などである。次年度は医学教育ワークショップを開催し、教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参画するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

270 学修対策部会議事摘録（令和3年4月27日）

240 PCCE 部会議事摘録（令和3年8月24日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5. 教員

領域5の改善項目として、「教員活動評価システムを活用して教員の活動や能力開発にフィードバックする方策を確立する」、「講師や助教が医学教育ワークショップに積極的に参加してカリキュラム全体を理解する」などが指摘された。これを受け、コロナ禍で開催を断念した医学教育ワークショップの代わりに電子FDを行い、若い教員の能力開発に活用したが、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策の確立については、引き続き、改善活動を続ける。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①教員の募集選抜に関する方針として、「求める教員像と教員組織の編制方針」が策定されていることは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①地域医療連携講座を開設し、地域医療教育に関する教員を選考していることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①医学教育ワークショップを定期的で開催し、種々の教育上の課題について議論している。

改善のための助言

- ①教員の活動を評価するシステムを活用し、エフォート率などを把握・評価してフィードバックする方策を確立すべきである。
- ②個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。
- ③講師や助教等の若い教員のFDへの参加率を向上させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教員の活動を評価するシステムについては、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策を確立するとともに、定期的に電子FDを行い、若い教員が継続的に研修を受けて自らの能力開発に努めるように、改善活動を続ける。なお、教員の活動と能力開発に関する方針は明文化されておらず、「教員の活動と能力開発に関する方針」と「教育スタッフ研修会の指針」を策定する必要があり、教育評価委員会(三部門会議)が試案を作成して医学部三役に提出した。

個々の教員のカリキュラム全体の理解と若い教員のFD参加について、医学教育ワークショップは、2021年度もコロナ禍(7~8月の第5波と4回目の緊急事態宣言)で開催を断念したが、代わりに全教員を対象にした電子FDを実施し、若い教員のFD参加率の向上を図った。「第115回医師国家試験結果の分析」(塩澤昌英講師)は、4月19日に教務課が全教員に配信して229人が視聴し、「UpToDate活用の案内」は、6月21日に医学部長が全教員に配信して412人が視聴した。今後は、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策を確立するとともに、定期的に電子FDを行い、若い教員が継続的に研修を受け自らの能力開発に努めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 232 教育評価委員会 部門長会議 (令和3年12月9日)
- 820 教員の教育活動と能力開発の方針(案)について (令和3年12月13日)
- 800 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和3年4月No.73)
- 801 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和3年6月No.75)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 教育資源

領域6の改善項目として、「診療参加型臨床実習の実質化に向けて学内外の指導者の能力向上を図る」、「学生の電子カルテへのアクセスを確保する」などが指摘された。これを受け、クリニカル・クラークシップ部会が改善に取り組み、クリクラ実務者会議を発足させて学生委員が議論に参加し、診療参加型臨床実習の充実を議論しているが、臨床実習の指導者の能力向上や学生の電子カルテのアクセス確保については、引き続き、改善活動を続ける。

6.1 施設と設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①旧病棟と旧外来棟を有効に活用し、学生の自習室と共同学習室を確保している。
- ②実践的な臨床技能の教育・訓練を実施するためのクリニカルスキル・トレーニングセンターを設置している。
- ③学生の課外活動のための部室棟や学生の休憩用スペースが整備されている。

改善のための助言

- ①水害などの災害に対する避難訓練、確実な安否確認方法の整備、災害後の復旧・事業継続計画を検討し、実施すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍においても、B棟の学習室は第5学年、C棟の学習室は第6学年に限定して利用を許可し、感染対策を十分に行った上で、自習環境を確保した。総合診療棟のクリニカルスキル・トレーニングセンター(トレセン)は、高学年の学生の臨床技能教育に利用されており、利用件数と利用者数は、2019年度が62件と1,860人、2020年度が61件と1,454人であり、コロナ禍においても有効に活用されている。第1学年～第4学年の授業は、教育1号館の講義室を対面と同時配信に分け(クラス分散授業)、学生食堂は全席にアクリル板を設置し(保護者会が寄贈)、授業時間をずらして昼食時に密集しないように感染対策を講じ、できるだけ学生が出校して授業を受けられるようにした。また、事務連絡専用携帯電話を購入して学年LINE運用を開始し、COVID-19感染対策を含めた災害に対する緊急連絡や安否確認に使えるようにした。今後は、安否確認方法を整備し、災害避難訓練を実施し、災害後の復旧・事業継続計画(BCP)を作成するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

001 将来構想 VISION 2022-2026

830 新年度方針について(学生通知)(令和4年3月16日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生からの要望を反映させ、教育の施設設備を整備している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①学生が臨床実習で適切な臨床経験を積めるように患者数と疾患分類を確保している。

改善のための助言

①診療参加型臨床実習の実質化に向けて、学内外の指導者に対しても指導能力のさらなる向上を図るべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習直前の PCCE では、問題志向型症例検討(POCD)を全診療科が参加する協同学習方式に変更し、臨床実習の指導医が協同学習の手法を学ぶ事前説明会をアクティブラーニング委員会の基礎系教員が実施した。引き続き、診療参加型臨床実習の実質化に向けて、Web-FD「臨床実習指導者研修会」を開催し、学内外の臨床医の指導能力のさらなる向上を図るように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

850 協同学習ワークショップ参加案内(令和4年1月13日)

840 2020 オンライン臨床実習マニュアル(電子シラバス)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①導入した電子シラバスを初めとして、情報通信技術をさらに有効かつ倫理的に活用すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

前年度初めに立ち上げた新型コロナ対策教育支援室(チームK)が LMS(学習管理システム)を使用し、動画配信や遠隔授業を実施した。臨床実習における大学病院での電子カルテの閲覧と記載については、昨年度と同様であり、画面上で本カルテに連動した学生用カルテに記載できる。現在、教務システムは出席管理のみ新システムを導入しているが、他の機能についても予定されていた機能の大方が完成し、今年度中の試験運用を目指している。教育用 IR として学生・教員・カリキュラムに関する内容について、教務委員会内の IT 部会で検討を進めるよう提案された。まずは、入学試験・共用試験 CBT・国家試験等の成績の繋がりが確認できるように、データを集約・解析し、教員と学生にフィードバックする仕組みの構築を目指し、学生の IR、特に成績に関する内容を最優先に、データ集約システムの導入を進めることになった。これらを実現するために、数社の既存の教育用 IR システムを比較検討し、富士通(データベース・IR 分析システム)の導入を決定したものの、コロナ禍における世界的な電子部品の調達の遅れにより、今年度末時点で導入の見通しが立っていない状況である。

改善状況を示す根拠資料

280 IT 部会議事摘録(令和3年5月17日)

281 IT 部会議事摘録(令和3年7月15日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①情報通信設備が整備され、自己学習への活用が行われている。

改善のための示唆

①診療参加型臨床実習の実質化のために、学生の電子カルテへのアクセスを確保することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍においても、情報通信技術を最大限に活用し、講義の動画配信や臨床実習の教材配布を積極的に行い、学生の学習に支障を生じないようにした。臨床実習における電子カルテの使用については、学生の権限が閲覧のみに限定されているため、カルテ記載については、クリニカル・クラークシップ部会が改善活動を行っており、学生委員が議論に参加して「電子カルテ作成システム」を導入した。現在、診療参加型臨床実習の実質化のために、学生が電子カルテに記載できるように要望し、必要なシステムを構築しているところである。

改善状況を示す根拠資料

250 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和3年3月5日)

251 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和3年4月21日)

252 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和3年10月28日)

253 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和4年3月3日)

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育研究センターが、マンスリーレポートやニュースレターを活用して、積極的に教育情報を発信している。
- ②文学部の教育専門家が教育技法の開発に参画している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①研究室配属(Research Mind Cultivation Program)では、海外や国内の先端研究機関での実習機会を設けている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①国際交流の強化に向けての担当部門を設置している。

改善のための示唆

①教職員と学生の国内外の交流に対して経済的支援の強化が望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

他学における研究のための経済的支援は以前から行っており、とくに改善活動を行っていない。大学におけるダイバーシティ・インクルージョンの面から、国内交流の推進は行っている。海外からの留学生の受け入れについては、COVID-19 対策のために中止されている。ハワイ大学の医学教育プログラム(HMPE)は継続しているが、利用者は少ない。

改善状況を示す根拠資料

213 教務委員会議事摘録(令和4年1月11日)

7. 教育プログラム評価

領域7の改善項目として、「教育課程と学修成果を定期的に監視するプログラムを設け、プログラ

ムを着実に評価し、評価結果をカリキュラムに確実に反映する」、「教育評価委員会のカリキュラム評価部門で包括的なプログラム評価体制を充実させる」、「教員や学生からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築する」、「フィードバックの分析結果に基づいたプログラムを開発する」、「学生や卒業生の実績を集積・分析する」、「広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築する」などが指摘された。これを受け、カリキュラムのPDCAサイクルについて、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会のカリキュラム評価部門がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うことを教職員全員に周知しており、評価結果のカリキュラムへの反映、カリキュラム評価部門における包括的なプログラム評価体制の充実、教員と学生の意見を集積するシステムの構築、学生や卒業生の実績の集積と分析、広い範囲の教育関係者のカリキュラムに関する意見を収集するシステムの構築については、引き続き、改善活動を続ける。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムとして、全学生を対象にした学生アンケートを行っており、2021年度は1月29日に第6学年の卒業時アンケート、4月1日に第1学年～第5学年の進級時アンケートを紙媒体で実施し(回収率98%)、医学教育研究センターが集計と分析、教育評価委員会が評価とまとめを行い、教務委員会と教授会議で報告し、ニュースレター(学内瓦版)として講座や部署に配布し、学内の掲示板(電子掲示板を含む)に掲示した。今後は、医学教育ワークショップで教育プログラムについて議論し、カリキュラム委員会に提言を行い、評価の結果をカリキュラムに反映するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

800 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和3年4月 No. 73)

802 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和3年7月 No. 76)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①教育評価委員会の下部組織であるカリキュラム評価部門での包括的なプログラム評価体制を充実させることが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

包括的なプログラム評価体制として、教育評価委員会の三部門長会議で活動内容を確認し、活動計画を議論しており、2021年度は改善項目の周知と年次報告書の作成を担当するとともに、

学生アンケートの継続と卒業生アンケートの実施を決定した。卒業生アンケートについては、同窓会報に QR コードを添付して Web アンケートを行い、多くの回答を期待することになった。今後は、教職員アンケートを計画し、包括的なプログラム体制を構築できるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 230 教育評価委員会 部門長会議（令和3年3月23日）
- 231 教育評価委員会 部門長会議（令和3年9月6日）
- 233 教育評価委員会 部門長会議（令和4年2月15日）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①教員や学生からのフィードバックを系統的に集積し、分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生アンケートは、教務課が実施(用紙を配布して回収)し、医学教育研究センターが集計と分析するシステムとして稼働している。2021年度の学生アンケートは回収率98%であり、系統的な情報収集となり、2年分のデータが集積した。今後は、学生アンケートを続けるとともに、教育主任アンケートの実施、電子FDの意見収集、教職員アンケートの導入を計画し、教員からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 810 医学教育研究センター ニュースレター（令和3年4月特別号 No. 37）
- 860 令和3年 卒業時/進級時 学生アンケート結果（令和3年6月30日）
- 211 教務委員会議事摘録（令和3年7月12日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①フィードバックのデータを分析し、プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラムの PDCA として、カリキュラム委員会が計画や策定(P)、教務委員会が実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会が点検や評価(C)、教務委員会が対処や改善(A)を行う体制が確立し、学生アンケートを収集して分析し、カリキュラム委員会にも報告や提言を行っているが、フィードバックのデータをプログラム開発に活用する段階には至っていない。今後は、教員と学生から得たフィードバックのデータ(例えば、学生アンケートや教職員アンケートの結果)に基づいて教育プログラムの開発を行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①2019年に医学部同窓会員に対して卒業生アンケートを実施した。

改善のための助言

- ①学生や卒業生の実績を集積・分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

卒業生アンケートは、2019年1月に医学部同窓会を通じて実施したが(無作為抽出法で564名に送付して140名が回答)、2020年度は行っていなかったため、2021年度は教育評価委員会が実施を審議し、QRコードを用いたWebアンケートを2022年度中に行う計画である。今後は、医学教育研究センターが教務課・臨床研修センター・医学部同窓会と連携し、卒業生(とくに研修医や専攻医)の実績を定期的に調査・収集して分析するシステムを構築して実施するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

231 教育評価委員会 部門長会議 (令和3年9月6日)

233 教育評価委員会 部門長会議 (令和4年2月15日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①学生選抜・カリキュラム立案・学生カウンセリングに関する学生の実績を分析し、責任ある委員会にフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生カウンセリングに関する実績については、学生支援室が学生相談室の利用状況(相談件数や相談内容)を学生部協議会(全学組織)に報告し、学生委員会や教授会議にフィードバックを提供している。今後は、IRセンターを設立し、学生選抜やカリキュラム立案に関する学生の実績を収集・分析し、アドミッション検討委員会やカリキュラム委員会にフィードバックを提供するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

291 学生部協議会議事摘録 (令和3年6月10日)

7.4 教育関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①卒業生の実績について、同窓会や臨床研修センターからフィードバックを得ている。

改善のための示唆

- ①教育課程とプログラム評価を確実に実施し、広い範囲の教育関係者が閲覧することが望まれる。
- ②広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

理念やカリキュラムに対する学生と卒業生の声を紙媒体(医学教育ニュース 63号/64号/65号)で配布するとともに、LINE・学内メール・LMS(学習管理システム)などの電子媒体や医学部ホームページでも配信し、広い範囲の教育関係者に公開した。今後は、学内だけでなく、教育関連施設を始めとする地域医療・他職種・患者代表などの広い範囲の教育関係者から教育活動に関する意見を収集するシステムを構築できるように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

290 広報活動部会議事摘録(令和3年5月24日)

8. 統轄と管理運営

領域8の改善項目としては、「設置が計画されている『医学IRセンター』に十分な資源を配分する」が指摘された。これを受け、教育活動を高めるための環境整備とコロナ禍の学生の生活支援を行うとともに、IRセンターに十分な資源を配分するように、改善活動が続ける。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①設置が計画されている「医学 IR センター」に十分な資源を配分すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学 IR センターを設立するために必要な費用を申請し、令和 3 年度事業計画予算の IR システム構築として、理事会・評議員会で承認されたが、半導体不足のあおりを受けて導入できていない。教育活動を高めるための環境整備として、教育 1 号館を含む学内の Wi-Fi 整備、教育 1 号館 1611 教室と筑水会間イベントホールの AV 機器更新、教育 1 号館 1 階出入口のオートロック化、クリニカルスキル・トレーニングセンターの教育用超音波シミュレータ導入、医学部グラウンドのスタンド改修を行った。今後は、設置が計画されている IR センターに十分な資源を配分するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

002 令和 3 年度事業計画予算

003 令和 4 年度事業計画予算

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①自己点検・評価委員会に外部検証を実施する機関として学外者による外部評価委員会を組織し、教育・研究水準の向上と組織の活性化に資する評価と提言を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

9. 継続的改良

領域9の改善項目として、「教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む」などが指摘された。これを受け、カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行う体制(PDCA サイクル)を確認しており、教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターは、6年後(2028年度)の受審に向けて、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む。

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①独自の能動的学修手法として「協同学習」を導入したことは評価できる。

改善のための助言

- ①教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組むべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

大学機関別評価(JUAA)や医学教育分野別評価(JACME)の受審を契機に、カリキュラムの内部質保証に関する意識が浸透し、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行う体制(PDCA サイクル)が確立した。今後は、各種委員会の連携を深め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- 221 カリキュラム委員会議事摘録(令和3年10月21日)
- 212 教務委員会議事摘録(令和3年11月8日)

質的向上のための水準(評価を実施されず)

久留米大学医学部医学科 年次報告書

発行日 2022年8月25日

発行者 久留米大学医学部医学科
〒830-0011 久留米市旭町 67
TEL 0942-31-7527
FAX 0942-31-4374

印刷 医学部事務部庶務課